

高校生介護技術コンテスト島根大会への出場 ～最優秀賞受賞・中国大会へ～

6月15日にトリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校を会場に高校生介護技術コンテスト島根大会が開催されました。このコンテストは県下の福祉を学ぶ5校の代表チーム（3人1チーム）による介護技術力を競う大会です。本校からは、福祉系列3年の湯谷真生さん、松本うららさん、澁谷鮎さんが出場しました。

また、今年度から2年間島根県福祉科校長会の事務局を本校が担当することから、このコンテストの運営も本校が中心で進めてきました。本校では、いろいろな式典の司会進行を生徒が行っていることから、この大会も本校の出場者の1人である澁谷さんが司会進行を務めてくれました。

本大会は、昨年度新型コロナウイルスの感染防止対策として中止になったため、2年ぶりの開催となりました。今年度になっても全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、島根県でもゴールデンウィーク後感染者が毎日のように報告されるようになり、このコンテストの開催を心配していましたが、感染症対策を行いながら、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校の協力を得て開催でき本当にうれしく思います。しかし、各校ともこのような状況下の中、校外の高齢者福祉施設での介護体験の受け入れが難しく、生徒の皆さんも思うように実践を積むことができず大変だったと思います。

大会は、事前に課題が示されていて、その課題にそってどのように介護を行っていくかという実技を7分間で行い、その後具体的にどのような工夫をしたのか2分間のプレゼンテーションをして、最後に審査員からの質疑応答という形で進められました。

今回の課題は、『1年前に左大腿部頸部を骨折し、入院・手術を受け、現在は介護老人福祉施設で歩行のリハビリを受けているが、転倒への不安が強く、歩行器を使用しての自立歩行は可能だが、車いすを使用しているという石見さん（80歳）を、ベッドから食堂へ案内し、食事を提供する。また、石見さんから「ベッドから車いすの移乗が大変」と相談を受け、石見さんに適した環境整備を行う。』というものでした。また、課題には石見さんのいろいろな情報、そして会場図が示されています。

本校では、まずチームを組み、それぞれがこの課題に取り組み、大会の1週間前に校内選考会を行い、代表選手を選び、その後は放課後等を使って練習を繰り返し、その都度工夫や修正をしていったそうです。大会の前日には私もリハーサルを見せてもらいました。

大会本番の5校の実技は、課題は同じでもそれぞれの視点で工夫がされていてそれぞれの学校の特徴がでていました。すべての競技が終了し、発表を待つ間、「どうだった」と尋ねると「昨日のリハーサル後また少し修正しました。今日は思う通りにできました。」と答えてくれました。

結果は、見事**最優秀賞に輝き**、7月に**行われる中国大会への出場**を決めました。審査員長の島根県介護福祉士会副会長の宮内理美様の講評の中に今回の審査基準は利用者さんの自立支援と環境整備に重点をおいて審査しましたとありました。本校の生徒の「お孫さんと散歩にいけるようになりましょう」など自立歩行に意欲が湧くような優しい声かけがよかったのでは感じました。

少子化と超高齢社会が加速する中、これからの福祉には介護技術に加え、いかに社会復帰できるように導くかなどの福祉社会をどうマネジメントしていくかが求められます。このようなコンテストを通じて福祉や介護に興味・関心をさらに高めてくれることを期待しています。

